自然体験活動を楽しむために

みなさまに安全に楽しんでいただくため、以下の点にご留意くださいますようお願いします。

①安全管理

不用意なケガや、動物や植物によるかぶれ等の被害を防ぐために
服装は一年を通して長袖、長ズボン、帽子の着用をおすすめします。
注意が必要な生きものについては裏面にも説明があります。

ハチに刺されたり、ヘビにかまれた時、その他の怪我をされた時、具合が悪くなった時は、センターにご連絡ください。救急セット(ガーゼ、ばんそうこう、包帯等)の貸し出しや救護室があります。

夏季の日中は大変暑くなります。前日、当日は環境省の熱中症警戒アラート(https://www.wbgt.env.go.jp/alert.php)や、暑さ指数(WBGT)をご確認いただき、WBGTが31以上の時や、熱中症警戒アラートが発表された場合は、野外活動の中止をご検討ください。
急な気温の上昇に備え、室内環境の確保をお勧めします。

一刻を争う場合は、携帯電話で119番に通報してください。
可能であれば、救急要請をしたことをセンターにもご連絡ください。
(誘導対応のため)

自然観察センターTEL045-894-7474
センターの休館日及び夜間時(閉館後16:30以降)に急を要する場合には、宿泊施設　上郷・森の家TEL045-895-5151　または警備会社　京浜警備TEL045-461-0105にご連絡ください。

②マナー

館内(自然観察センター内)マナー
館内には様々な展示物があります。多くの展示物は自由に見学したり、触ったりすることができますが、利用の際は、・展示物が壊れるような無理な扱いをしない。・出したものは元の場所に戻す。・児童が配架物をむやみに持っていかないように指導する。・飲食はしない(研修室は除く)。などのマナーを遵守いただきますようお願いします。

フィールドマナー
園内には、多くの方が来園されます。野外活動をする際や森を歩く際には、あいさつを交わし、道は譲りあうようにして、お互いに気持ちよく利用できるよう心掛けてください。

など

③夜間の体験活動

森の中は基本的に外灯がありません。

夜間に活動(ホタル観察や星空観測等)する場合、コースは必ず日中に下見をしてください。
トレイルから外れて藪などに踏み込まないようにしてください。
また足元も平らでないため十分にご注意ください。

※16:30で自然観察センターは閉館(無人)となりますので、トイレは野外トイレ(自動照明あり)をご利用ください。

④地震発生時

大きな地震が発生した際は、周りに建屋や樹木などがない安全な場所(モンキチョウの広場、アキアカネの丘など)に避難をしてください。

ノギクの広場に関しては、崖崩れの可能性があるため、すぐに崖から離れた場所に避難してください。

自然観察センターTEL045-894-7474

作成:(公財)日本野鳥の会　改訂2025年版

～注意が必要な生き物～

1.ハチ(スズメバチ、アシナガバチ、ミツバチ、狩バチ)

＜襲われないために＞

・攻撃された際、特に標的になるので、黒っぽい色の服はさけてください。また帽子をかぶって、頭部を守ってください。

・香水、整髪料の香りはハチを引き寄せることがあります。

・甘いにおいのする飲み物に集まることがあります。飲み残した缶などを放置しないようにしましょう。

＜出会ったら＞

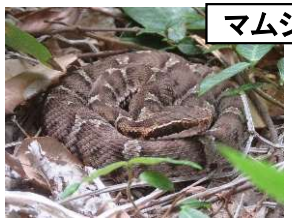
・近くにいるときは、じっとしてやり過ごします。近くに来ても手で追い払わず、動かずに遠ざかるのを待つか、後ずさりしながらゆっくりとその場を離れてください。

・巣を見つけた時は近づかないでください。姿勢をできるだけ低くして、ゆっくりその場から離れてください。ハチは攻撃態勢に入ると「カチカチ」と威嚇音を出します。威嚇された場合は立ち止まらず、静かに離れてください。

＜万が一ハチに刺されたら＞

・傷口を水で洗って、毒を洗い出してください。「ポイズンリムーバー（毒吸引器）」「虫刺され薬（ステロイドホルモン含有の抗ヒスタミン軟膏）」を観察センターでは常備しています。症状が重い（めまい・嘔吐・発疹等）場合には救急車を手配します。

2.ヘビ



・観察の森にはマムシやヤマカガシといった毒をもっている種類もいます。

・ヘビに出会った際はつかまえたり、つつくようなことは絶対にせず、離れたところから観察するようにしてください。

・毒をもったヘビにかまれた場合は、すぐに血清がある病院へ行ってください。

3.マダニ（JIHS　HP参照）

マダニ対策、今できること(JIHS)

・SFTS(重症熱性血小板減少症候群)などの病気を媒介することがあります。

・藪の植物の上からはい上がってきて、体の柔らかい部分にくいつき、１週間から１０日くらい離れません。

・藪の中をかき分けて入らないようにしましょう。入った時には、お風呂に入る前に体にマダニが付いていないか確かめてください。

・対策には、袖・裾・襟から侵入されにくい服装、蚊よけと同じ虫除け剤（**ディート**や**イカリジン**が含まれる忌避剤）の使用がおすすめです。膝から下や靴の中にスプレーするとよいです。

・無理に取ったりつぶしたりせず、医療機関（皮膚科や外科）で取り除いてもらうようにしてください。

4.カバキコマチグモのなかま

（↑上記の写真は近縁種のヤマトコマチグモです。）

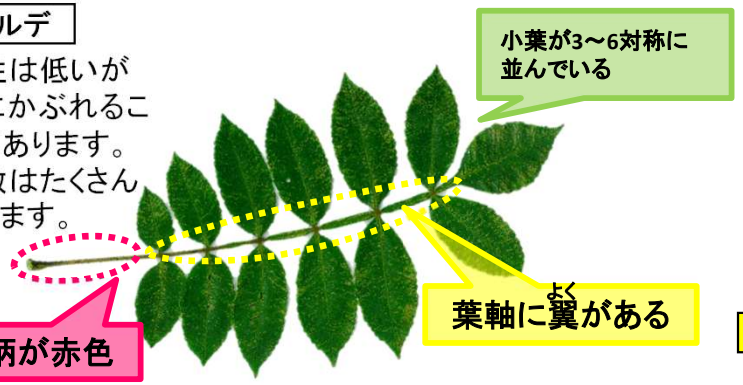
・夏から秋にかけてススキなどの、イネ科の植物の葉をまいて巣を作ります。

・葉を開いて巣をこわすとかまれ、ひどくはれます。みつけてもこわさないようにしてください。

5.かぶれる植物・・・葉をちぎったり枝を折ったりしないでください。

ヌルデ

毒性は低いが稀にかぶれることがあります。本数はたくさんあります。



ツタウルシ

ヤマハゼ

コクサギ

川や湿地の近くに多くあります。汁がつくとかぶれたり色素沈着を起こすことがあります。

＊有毒な動植物の一例です。詳細はレンジャーにご相談ください。